

学生の確保の見通し等を記載した書類 別紙資料

資料 1	学生アンケート調査（リーフレット・設問）・・・・・・・・・・	3
資料 2	学生アンケート調査（結果）・・・・・・・・・・	9
資料 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績・・・	13
資料 4	要望書（群馬県）・・・・・・・・・・	15
資料 5	要望書（群馬経済同友会）・・・・・・・・・・	17
資料 6	要望書（東洋紡）・・・・・・・・・・	19
資料 7	要望書（サンヨー食品）・・・・・・・・・・	21
資料 8	要望書（群馬県医師会）・・・・・・・・・・	23
資料 9	要望書（群馬県看護協会）・・・・・・・・・・	25
資料 10	企業アンケート調査（結果）・・・・・・・・・・	27

群馬大学大学院 食健康科学研究科（博士課程）

【学位】博士（食健康科学） Doctor of Food and Population Health Sciences

社会的背景・必要性

超高齢社会において、平均寿命とともに平均健康寿命が延びる中、生活習慣病など健康寿命を損なう疾患の発生が増え、医療や福祉などの問題に対応することが喫緊の課題となっています。

食は人に健康をもたらすものであるだけでなく、地球規模の環境負荷及びエネルギー等の課題に関係しているため、食の健康への機能性に関するエビデンスベースでの評価や高付加価値かつ低炭素な生産システムへの取組がますます期待されています。



育成する人材像 ～ このような人材を育成します ～

- 医科学、保健学、食品科学、食品生産工学、環境科学を基盤とする食健康科学における総合的および高度な科学リテラシーを有しており、これらを活用して社会的ニーズを踏まえつつ、産業振興や健康長寿社会創出に貢献できる人材
- 高付加価値の食品開発、食品の先端加工・製造技術の開発、食に関連した健康増進・健康寿命延伸の分野の高度専門家として地域及び世界において先導的な役割を果たすことができる人材

アドミッション・ポリシー ～ このような人を求めています ～

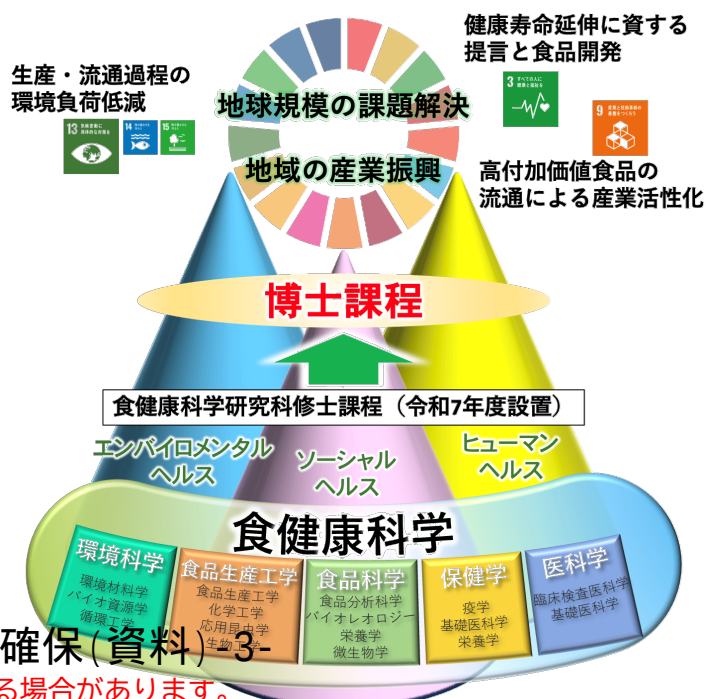
- 食健康科学の博士前期課程レベルの専門的知識を修得した人で、食と健康のそれらを取り巻く社会環境の課題解決に強い意欲を持つ人
- 出身学問分野に関わらず、医科学、保健学、理工学、農学、栄養学のそれぞれの分野の修士課程レベルの専門知識を基に専門性の高度化を目指すことを図るとともに、分野横断的に高度専門知識を修得し、豊かな教養をもって学術研究を展開する強い意欲を持つ人
- 食・健康・環境の諸課題解決に繋がる学際研究を展開し、地球規模での持続可能な社会創出に向けて指導的役割を担う強い意志と倫理観を有する人

修了後の主な進路

大学・研究機関、自治体、官公庁、食料品製造業、飲料製造業、化学工業製品製造業、医薬品製造業、化粧品製造業、産業用電気機械器具製造業

設置場所

荒牧キャンパス
桐生キャンパス
昭和キャンパス



-学生確保(資料)-3-

※【設置構想中】掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

■ 入学料・授業料（現行）

入学金

282,000円

授業料

535,800円（年額）

※入学金・授業料の免除、奨学金、教育研究補助員雇用などの経済的支援制度があります。

■ 設置場所・アクセス

ACCESS



荒牧キャンパス

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

バス

●JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

□群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）

□渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）

昭和キャンパス

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22

バス

●JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

□全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）

□群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橋団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

●JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）

群馬総社駅「群大病院」下車（所要時間約15分）

ACCESS



桐生キャンパス

〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1

電車

●JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ約2.5km

●東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ約4.1km

バス

●JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

□旧女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）

□菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）

●東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）

□旧女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）



国立大学法人
群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

<https://www.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学の新しい大学院に関するアンケート

群馬大学では、社会課題を解決する実践力をもつ高度な専門人材を育成するため、大学院の改革に取り組んでいます。

食健康科学研究科は、令和7(2025)年度に「修士課程」を設置しており、令和9(2027)年度に、新たに「博士課程」を設置することを検討しています。

本アンケートは、学生の皆さんの進路選択に関する考え方、大学院で学びたいことなどの意見をお伺いし、群馬大学大学院の教育をより充実したものにするための参考とさせていただきます。

アンケートで得られた情報や回答内容は上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありませんので、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ 別紙資料の内容は設置構想中のものであり、名称は仮称です。

今後変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

う

※以降の設問は、「設置の手引き」に基づいた
内容で作成しています。

(1) はじめに、あなたご自身についてお聞きします。

1. あなたが所属する大学について教えてください。

(例) ○○大学

回答	
----	--

2. あなたが所属する学部・学科または研究科・専攻等について教えてください。

(例) ○○学部○○学科、○○研究科○○専攻

回答	
----	--

3. あなたの学年について教えてください。

- ① 学部 1年次
- ② 学部 2年次
- ③ 学部 3年次
- ④ 学部 4年次
- ⑤ 学部 5年次
- ⑥ 学部 6年次
- ⑦ 修士 1年次
- ⑧ 修士 2年次

回答	
----	--

4. あなたの学籍番号について教えてください。

回答	
----	--

5. 大学(学部・研究科)卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）

- ① 大学院に進学（博士課程 まで）
- ② 大学院に進学（修士課程 まで）
- ③ 就職
- ④ その他

回答		
----	--	--

（ 5の設問のうち、①または②を選択した方に質問です。

③または④を選択した方は、6と7の設問は飛ばして次に進んでください。 ）

6. 志望する大学院の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

- ① 国立
- ② 公立
- ③ 私立

回答	
----	--

7. 大学(学部・研究科)を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

- ① 法学・政治学関係
- ② 商学・経済学関係
- ③ 社会学関係
- ④ 数学関係
- ⑤ 物理学関係
- ⑥ 生物関係
- ⑦ 機械工学関係
- ⑧ 電気通信工学関係
- ⑨ 土木・建築工学関係
- ⑩ 応用化学関係
- ⑪ 農学関係
- ⑫ 医学関係
- ⑬ 薬学関係
- ⑭ 保健学関係
- ⑮ 食健康科学関係
- ⑯ 教育学関係
- ⑰ 自然科学関係
- ⑱ 人文・社会科学関係

その他:

回答	
----	--

次ページに続きます。

ここからは、リーフレットを見ながら回答してください。

（2）群馬大学において新たに設置しようとしている大学院についてお聞きます。

1. 群馬大学大学院 食健康科学研究科（博士後期課程）が開設された場合、受験を希望しますか。次から一つ選択してください。

- ① 第一志望 として受験する
- ② 第二志望 として受験する
- ③ 第三志望以降 として受験する
- ④ 受験しない

回答	
----	--

（1の設問で①～③を選択した方に質問です。）

2. 群馬大学大学院 食健康科学研究科（博士後期課程）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次から一つ選択してください。

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

回答	
----	--

（3）大学院の教育に関してご意見・ご要望がありましたらお答えください。

（自由記載）

回答	
----	--

以上でアンケートは終了です。
ご協力いただきありがとうございました。

食健康科学研究科(博士後期課程) 学生アンケート調査 (結果)

群馬大学大学院食健康科学研究科(博士後期課程)の設置にあたり、進学ニーズを把握するため、2025 年 10 月に学生を対象にアンケート調査を実施した。回答にあたり、食健康科学研究科の概要を記したリーフレットを読むように勧めている。

調 査 対 象：群馬大学の学生 6,033 名
 (学部生 5,056 名、修士課程・博士前期課程の大学院生 977 名)
 茨城大学農学研究科の学生
 群馬県内の公立 4 大学の 学部生・大学院生
 有効回答数：193 名 (学内 113 名、学外 80 名)

図 1 有効回答者

群馬大学	81
共同教育学部	11
情報学部	6
医学部保健学科	9
理工学部	55
群馬大学大学院	32
情報学研究科	3
保健学研究科	8
理工学府	1
食健康科学研究科	20
茨城大学大学院	1
農学研究科	1
群馬県立県民健康科学大学	1
看護学部	1
群馬県立県民健康科学大学大学院	1
看護学研究科	1
群馬県立女子大学	10
国際コミュニケーション学部	2
文学部	8
群馬県立女子大学大学院	1
文学研究科	1
高崎経済大学	56
経済学部	24
地域政策学部	32
前橋工科大学	9
建築・都市・環境工学群	3
情報・生命工学群	6
前橋工科大学大学院	1
工学研究科	1
合 計	193

図2 大学院進学（博士課程まで・国立）を検討している学生のうち、
食健康科学研究科 博士後期課程へ 第一志望で 入学を希望 している者

	学部 1年	学部 2年	学部 3年	学部 4年	修士 1年	修士 2年	合計	構成比
群馬大学	4	3	4	5			16	66.7 %
医学部保健学科				2			2	8.3 %
理工学部	4	3	4	3			14	58.3 %
群馬大学大学院					6	1	7	29.2 %
食健康科学研究科					5		5	20.8 %
保健学研究科					1	1	2	8.3 %
群馬県立女子大学	1						1	4.2 %
文学部	1						1	4.2 %
合 計	5	3	4	5	6	1	24	

(集計条件)

(赤字) 設置後、学年進行期間の入学見込者

以下を全て満たす者

- ・大学院進学(博士課程まで)を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・食健康科学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

図3 大学院進学（博士課程まで・国立）を検討している学生のうち、
食健康科学研究科 博士後期課程へ 第1志望、第2志望又は第3志望で 入学を希望 している者

	学部 1年	学部 2年	学部 3年	学部 4年	修士 1年	修士 2年	合計	構成比
群馬大学	9	4	5	5			23	60.5 %
医学部保健学科	1			2			3	7.9 %
理工学部	8	4	5	3			20	52.6 %
群馬大学大学院					8	2	10	26.3 %
食健康科学研究科					6		6	15.8 %
保健学研究科					2	2	4	10.5 %
群馬県立女子大学	1						1	2.6 %
文学部	1						1	2.6 %
高崎経済大学	1	1		1			3	7.9 %
地域政策学部	1	1		1			3	7.9 %
前橋工科大学	1						1	2.6 %
情報・生命工学群	1						1	2.6 %
合 計	12	5	5	6	8	2	38	

(集計条件)

(赤字) 設置後、学年進行期間の入学見込者

以下を全て満たす者

- ・大学院進学(博士課程まで)を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・食健康科学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望、第二志望又は第3志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：食健康科学研究科（修士課程）に関する大学院説明会での説明（2024年5月）

	R7年度入試	R8年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	81人		①取組概要 2024年5月30日（木）開催の大学院理工学府説明会における1プログラムとして、「食健康科学研究科（※設置構想中）について」のタイトルで説明を行った。なお、当日の様子は、本学YouTube公式チャンネルでアーカイブ公開しており、リアルタイムで説明会に参加せずとも、いつでも視聴できる。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 気軽に参加できるように、説明会は申込不要としていたことから、説明会参加者の食健康科学研究科受験・入学実績は把握できていない。
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：食健康科学研究科（修士課程）に関する大学院説明会での説明（2024年12月）

	R7年度入試	R8年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	28人		①取組概要 2024年12月17日（火）開催の大学院理工学府説明会において、理工学府教務委員長からの説明内容として、食健康科学研究科の概要や入試制度について取り扱った。なお、当日の様子は、本学YouTube公式チャンネルでアーカイブ公開しており、リアルタイムで説明会に参加せずとも、いつでも視聴できる。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 気軽に参加できるように、説明会は申込不要としていたことから、説明会参加者の食健康科学研究科受験・入学実績は把握できていない。
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：食健康科学研究科（修士課程）に関する大学院説明会での説明（2025年5月）

	R7年度入試	R8年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)		50人	①取組概要 2025年5月22日（木）開催の大学院理工学府説明会（第1回）における1プログラムとして、「食健康科学研究科について」のタイトルで説明を行った。なお、当日の様子は、本学YouTube公式チャンネルでアーカイブ公開しており、リアルタイムで説明会に参加せずとも、いつでも視聴できる。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 気軽に参加できるように、説明会は申込不要としていたことから、説明会参加者の食健康科学研究科受験・入学実績は把握できていない。
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：食健康科学研究科（修士課程）に関する大学院説明会での説明（2025年10月）

	R7年度入試	R8年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)		15人	①取組概要 2025年10月29日（水）開催の大学院理工学府説明会（第2回）における1プログラムとして、「食健康科学研究科について」のタイトルで説明を行った。なお、当日の様子は、本学YouTube公式チャンネルでアーカイブ公開しており、リアルタイムで説明会に参加せずとも、いつでも視聴できる。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 気軽に参加できるように、説明会は申込不要としていたことから、説明会参加者の食健康科学研究科受験・入学実績は把握できていない。
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：食健康科学研究科（修士課程）パンフレットの配付（2024年）

	R7年度入試	R8年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 食健康科学研究科（修士課程）パンフレットを900部制作し、本学で開催したシンポジウム、学外で開催された本学地域貢献事業やイベントで配付した。また、本パンフレットは、荒牧、昭和、桐生キャンパス内で配付されている。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 パンフレットを受領した者を特定していないため、食健康科学研究科受験・入学実績は把握できていない。
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑥募集を行った学科等名称及び取組の名称：食健康科学研究科（修士課程）パンフレットの配付（2025年）

	R7年度入試	R8年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 食健康科学研究科（修士課程）パンフレットを1000部制作し、17大学（群馬県：14大学、栃木県：3大学）及び利根沼田農業事務所に郵送して周知を依頼した。また、本パンフレットは、荒牧、昭和、桐生キャンパス内で配付されている。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 パンフレットを受領した者を特定していないため、食健康科学研究科受験・入学実績は把握できていない。
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

戦企第 306-13 号
令和 8 年 1 月 2 2 日

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹 様

群馬県知事
山 本 一 太



食健康科学研究科博士後期課程の設置に関する要望書

貴学におかれましては、本県に立地する国立大学として、地域の知の拠点となり、教育・研究・医療を担う中核機関としての役割を果たされ、活力ある地域社会の創造、産業の発展、医療福祉の向上に多大な貢献をいただいておりますことに、心より敬意と感謝を表します。

本県は、多様な地域の特産となる農作物を生産し、農業産出額は全国上位に位置するとともに、食料品製造業の製造品出荷額等は、自動車産業を核とする輸送用機械器具製造業に次ぐ規模であり、いずれも群馬県経済を支える重要な役割を担っています。

さて、本県では、本来の県民の幸福も考え、エネルギーや食、健康、社会的平等など、さまざまな事象ごとに社会や環境、経済への影響を考えバランスの取れた成長を実現する、持続可能な社会を目指しています。

「新・群馬県総合計画」（2021～2040 年）においては、健康長寿社会の実現を掲げています。この実現に向けて、「活力ある健康長寿社会実現のための「群馬モデル」」（2021 年 3 月）を策定し、産学官の連携により「健康な食事への接点拡大」を掲げ、健康な食事に資する商品の製造・流通拡大に取り組むこと等を戦略として位置づけました。

こうした中、貴学におかれましては、食健康科学教育研究センターや理工学部食品工学プログラムの活動を基盤に、食と健康に関する研究の推進と専門人材の育成を通じ、地域産業の振興と県民の健康増進に努められています。2025 年に食健康科学研究科（修士課程）を設置され、本県の特産品であるこんにゃくの成分に着目した健康食品の研究や開発にも取り組んでいただいております。今後も健康増進や産業振興などの複雑・多様化する行政課題に新たな手法で解決していくため、貴学とのさらなる連携に大きな期待を寄せているところです。

近年、技術革新は一層の加速を見せており、複雑・多様化する課題に対処するには、既存の知識や技術の応用にとどまらず、新たな知見や革新的な技術を創出できる高度専門職業人や研究者、すなわち博士人材の指導的役割が不可欠です。貴学が食健康科学研究科において養成を目指す博士人材は、食健康分野に関する高度な専門性と研究能力を備え、地球規模の健康課題や環境負荷低減、さらには地域産業における食品開発の課題解決において、中核的役割を担うことが期待されます。

つきましては、貴学食健康科学研究科における博士後期課程の新設が実現し、これまで以上に本県及び我が国全体の発展に貢献できる大学となるよう、特段のご配慮を賜りますよう要望いたします。

令和 8 年 1 月 2 0 日

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹 様

群馬経済同友会

代表幹事 坂 本 正 堂

代表幹事 深 井 彰 彦



群馬県経済産業界の振興強化に関する要望書

貴学におかれましては、日頃より本県経済産業界に対し、多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会と貴学は 2020 年 8 月に包括連携協定を締結して以来、大学院改革に関する意見交換、企業へのアンケート調査、進路担当者とのインターンシップ等に係る情報交換会の開催などを通じ、地域産業の振興と地域課題の解決に資する人材育成に向けた対話と協働を重ねてまいりました。

群馬県は農業が盛んであり、農業出荷額は都道府県別で全国 12 位（2022 年）と、多様な地域特産農作物を生産しています。中でも食品製造業は県内主要産業の一つであり、大規模消費地である東京都及び近隣県を含めた大都市圏まで約 100km という地理的優位性から、ナショナルブランド企業を含む大手食品メーカーの生産拠点が多数立地しています。

こうした環境のもと、貴学におかれましては食健康科学教育研究センターや理工学部食品工学プログラムの活動を基盤に、食と健康に関する研究の推進と専門人材の育成を通じ、地域産業の振興と県民の健康増進に資することを目的として、2025 年に食健康科学研究科（修士課程）を設置されました。

このたび、当該研究科において博士後期課程の設置を検討されていることは、県内食品関連企業の発展にとって極めて意義深いものです。新たな知見や革新的技術を創出し、指導的役割を果たす博士人材の育成により、共同研究の一層の推進が期待され、ひいては本県食品製造業の強化に大きく寄与するものと確信しております。また、人材育成の観点からも、県内外から新たな人材を呼び込む契機となるとともに、企業人の学び直し（リスキリング）の場として活用が進むことが期待されます。

つきましては、貴学食健康科学研究科における博士後期課程の設置は、本県経済産業界の振興・強化に大きく資するものであることから、その早期実現を強く要望いたします。

令和 8 年 1 月 23 日

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹 様

東洋紡株式会社
フィルムイノベーション総括部 部長

大 谷 耕 幸

食健康科学研究科博士後期課程の設置に関する要望書

群馬大学大学院食健康科学研究科の博士後期課程の設置が早期に実現されますよう、以下のとおり要望いたします。

当社は、食品用容器包装をはじめ、一般包装などに用いられる各種プラスチックフィルムを製造しており、容器包装はあらゆる産業において、商品を消費者へ安全かつ確実に届けるために欠かせない存在となっています。特に食品分野では、内容物である食品を「より安全に、より経済的に、より使いやすく」届けるという点で、容器包装の果たす役割は極めて大きいものです。また、医薬品分野では、包装自体が製品の一部として品質担保に直結する場合も多く、より高い専門性と慎重な対応が求められます。

今後、食品関連産業が持続的に発展していくためには、食品に関する高度な知識と専門性を備えた人材の育成が不可欠であり、とりわけ「食を通じて健康を守る」という視点は、将来ますます重要になるものと考えております。

このような中、貴学は 2025 年に食健康科学研究科（修士課程）を設置され、食と健康に関する研究の推進と専門人材の育成を通じて、地域産業の振興と県民の健康増進に寄与する体制を整えてこられました。従来の学問分野の枠を超え、人の健康な生活の追求に加えて、食の生産・流通・消費に関わる環境や社会の健全性の維持・強化にも取り組まれている点を、高く評価しております。

現在、貴学が検討されている博士後期課程では、修士（博士前期）課程で培われた高度な専門知識・技術をさらに発展させ、気候変動、産業・エネルギー構造の変化、多様な食習慣、さらには災害時における食健康の維持など、現代社会が直面する課題に対して、レジリエントな社会を支えるイノベーション創出を担う「食健康科学」高度先端人材の育成を目指されていると伺っております。当社としても、このような取り組みを強く支持するものです。

食品関連産業の次世代を担う若手人材や、すでに現場で活躍している社会人が、こうした学びの機会を早期に得られる環境が整うことを強く望んでおります。併せて、貴学と当社が連携し、共同研究や技術開発に取り組む機会がさらに拡大することを、大いに期待しております。

以 上

2026 年 1 月 6 日

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹 様

サンヨー食品株式会社
執行役員開発本部長 阿部浩二



食健康科学研究科博士後期課程の設置に関する要望書

群馬大学大学院食健康科学研究科における博士後期課程の設置につきまして、以下のとおり、早期の実現を要望いたします。

当社は、加工食品であるインスタントラーメンの製造・販売を行う企業として、研究開発の中核機能を創業の地である群馬県前橋市に置いております。食品は、多様な化学物質が相互に影響し合う複合系であり、その栄養機能や生体調節機能が人の健康維持に大きく寄与しています。このため、食品および食品成分が生体内で果たす役割を、科学的・多角的に解明する研究が一層重要になっております。

貴学においては、食と健康の関係を深く理解し、地域産業の高度化と県民の健康増進に寄与することを目的として、2025 年に食健康科学研究科(修士課程)を設置されました。学内外の教育研究機関や企業、自治体等が連携し、学問分野を超えた自由で柔軟な知の交流が行われている点、そして、食を通じた健康科学や食産業における環境・社会の健全性の向上に向けた研究を推進されている点を、高く評価しております。

現在、貴学で検討されている博士後期課程は、修士(博士前期)課程で培われた高度な専門性をさらに深化させ、気候変動、産業・エネルギー構造の変化、食習慣の多様化、災害時の食・健康確保など、複雑化する社会課題に対応できる人材を育成するものと伺っております。レジリエントな社会を支えるイノベーション創出に貢献する高度先端人材の育成に向けた貴学の姿勢に、当社としても強い賛同の意を表します。

食品関連産業においては、科学的知識を基盤とした商品開発や品質保証、健康価値の創出がますます重要になっており、次世代を担う若手人材や、既に現場で活躍する社会人が、博士後期課程で高度な学びを得られる環境が整うことを強く望んでおります。また、博士後期課程の設置により、貴学と当社との連携研究や技術開発の機会がさらに拡大し、地域産業全体の発展にも大きく寄与するものと期待しております。

特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

以上

群医第 3119 号
令和 6 年 1 月 16 日

国立大学法人群馬大学
学長 石 崎 泰 樹 様

群馬県医師会
会長 須 藤 英 仁
(公印省略)

食健康科学研究科の設置に関する要望書

群馬大学大学院食健康科学研究科の設置をできる限り早期に実現していただきますよう、次のとおり要望いたします。

群馬県の食健康科学に関する代表的な疾病の現状は、メタボリック症候群の予備軍が男性 28.9%(全国 24.1%)、女性 11.4%(全国 8.2%)といずれも高値となっており、また糖尿病が最大の原因疾患である人工透析導入では、令和 3 年の集計では全国平均 12.2 人(人口 10 万人対)と比較し、16.2 人と大きく上回っています。全国一の自動車普及率など日常的に体を動かすことの減少が一つの要因となっていることも否めませんが、最も基本である「食」に対する県民の認識、教育不足も大きな要因と思われ、専門人材の育成が大いに求められます。

貴大学では、「食」をキーワードとして健康社会に貢献する食健康科学教育研究センターを設置し、農作物の 6 次産業化に資する研究や、エビデンスに基づく高付加価値な高機能食品を生み出すための研究、食に関連した健康増進に関わる研究を推進されています。

また、公開講座において社会人向けリカレント・リスキリング教育に努められており、農作物から食品生産までの食品工学プロセスや、食の栄養機能と代謝調節に関わる健康科学プロセスの両面について学修できる取組は魅力的なものと考えています。

このたび貴大学が設置を検討されている食健康科学研究科は、これらの活動を一層推進し、高度化するものです。修士課程においては、保健学、食品科学、食品生産工学、環境科学、に関する専門性を基盤として、従来の学問分野の枠を越えて「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献し得る「食健康科学」の高度専門人材を育成し、さらに博士課程においては、医科学も含めた高度な専門的知識・技術を食健康科学へと展開することを目指されており、このような取組について群馬県医師会としても大いに支持します。

以上のような食健康科学の学問について、修士課程および博士課程において学ぶ機会を早急に提供されることを強く要望するとともに、貴学と共同して臨床現場で求められている各世代の健康増進に関わる研究を深め、小児期においては食物アレルギー疾患の予防、青少年期では健やかな成長に資する食事の提供、壮年期ではメタボリック症候群

予防のための食事の提案、高齢者においてはフレイル予防に欠かせない食事の改良、さらに誤嚥予防できる食事形態の研究など、貴科との研究面での連携が健康社会増進に大きな力となることを確信しております。

また治療の進歩により、食事内容も大きく変わるべきではないでしょうか。糖尿病の治療は新たな薬剤が多数上市され大きく変化しました。糖尿病食事指導が旧態依然の食品交換表でよいのでしょうか。食品の多様化は驚くばかりです。

高齢化により心不全のパンデミック発生は現実のものとなりました。ファンタスティックフォーとよばれる新たな治療薬の使用も進んでおりますが、減塩食の重要性は変わりません。日本人の味覚に沿った減塩食の開発も待たれます。

さらに各疾病における栄養素としての食の評価だけではなく、食事が回復過程においてどのくらい精神的影響を与え重要であるか、などの研究も価値あるものと考えます。

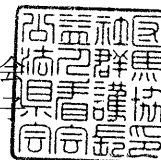
今後、社会の変化、治療の変化に合わせ人類の生命維持のため最も重要である食の研究することは極めて重要です。群馬大学大学院食健康科学研究科の設置が世界に通用する知識と技術を得られる大学院となる事を大いに期待しております。

特段のご配慮を賜りますようお願い致します。

令和 5 年 1 月 1 5 日

国立大学法人群馬大学
学長 石 崎 泰 樹 様

公益社団法人群馬県看護協会
会長 神 山 智 子



食健康科学研究科の設置に関する要望書

貴学におかれましては、日頃から本会活動へのご理解と多大なるご尽力を賜っておりますことに感謝申し上げます。また、県内唯一の国立大学として、専門的な医療人の育成並びに地域の保健、医療及び福祉の向上に寄与されておられますことに、心から敬意と感謝を表します。

本会は、県民及び国民の命と健康を守るため、貴学への大学院食健康科学研究科の設置について、できる限り早期に実現していただきますよう、次のとおり要望いたします。

貴学では、「食」をキーワードとして健康社会に貢献する食健康科学教育研究センターを設置し、農作物の 6 次産業化に資する研究や、エビデンスに基づく高付加価値な高機能食品を生み出すための研究、食に関連した健康増進に関わる研究を推進されています。

また、公開講座において社会人向けリカレント・リスキリング教育に努められており、農作物から食品生産までの食品工学プロセスと、食の栄養機能と代謝調節に関わる健康科学プロセスの両面について学修できる取組は魅力的なものと言えます。

このたび貴学が設置を検討されている食健康科学研究科は、これらの活動を一層推進し、高度化するものです。修士課程においては、保健学、食品科学、食品生産工学、環境科学に関する専門性を基盤として、従来の学問分野の枠を越えて「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献し得る「食健康科学」の高度専門人材を育成し、さらに博士課程においては、医科学も含めた高度な専門的知識・技術を食健康科学へと展開することを目指されており、このような取組について本会としても大いに支持します。

私たち看護の専門職の役割は、人類と地球の健全性に資する 3 つのヘルス分野（エンバイロメンタル・ヘルス、ソーシャル・ヘルス、ヒューマン・ヘルス）のうち、ひとの健康な生活を支える領域であるヒューマン・ヘルスへの関わりが強いことはもちろんのこと、貴学が取り組む、働く女性、特に看護職を対象とした大規模コホート研究等ソーシャル・ヘルスの領域にも大きく関わるものと考えます。

以上のような食健康科学の学問について、修士課程および博士課程において学ぶ機会を早急に提供されることを強く要望するとともに、県民の健康と福祉、幸福度の向上を目指した活動を進められることを期待しております。

食健康科学研究科(博士後期課程) 企業アンケート調査 (結果)

群馬大学大学院食健康科学研究科(博士後期課程)の設置にあたり、人材ニーズを把握するため、2025 年 11 月に関連企業・団体を対象にアンケート調査を実施した。回答にあたり、食健康科学研究科の概要を記したリーフレットを読むように勧めている。

調 査 対 象：群馬県食品工業協会 会員企業 83 社
 修了生の就職先として想定される企業 81 社
 有効回答数：22 社

設問1 本社(本部)所在地について、都道府県名を教えてください。

	回答数	構成比
群馬県	10 社	45 %
埼玉県	1 社	5 %
東京都	9 社	41 %
神奈川県	1 社	5 %
滋賀県	1 社	5 %

設問2 業種について、ご回答ください。

	回答数	構成比
製造業	12 社	55 %
飲食店・宿泊業	1 社	5 %
医療・福祉	2 社	9 %
サービス業	2 社	9 %
公務	2 社	9 %
その他(検査機関等)	3 社	14 %

設問3 過去(例えば3か年)の平均的な正規社員の採用数について、教えてください。

設問4 3のうち、大学院修了者(修士課程、博士課程いずれも含む)を教えてください。

設問5 3のうち、大学院修了者(博士課程のみ)を教えてください。

	平均採用数	大学院修了者	博士修了者
0 名	—	7 社	15 社
1 ～ 10 名	10 社	10 社	7 社
11 ～ 50 名	9 社	3 社	—
51 ～ 100 名	—	1 社	—
101 名 以上	3 社	1 社	—

設問6 大学院修了生を採用した実績がある場合又は採用を予定している場合

修士課程修了生と博士課程修了生の専門的知識・能力の高さの違いを意識していますか。

	回答数	構成比
とても意識している	2 社	9 %
ある程度意識している	10 社	45 %
あまり意識していない	8 社	36 %
まったく意識していない	—	—
大学院(博士課程)修了生の採用は予定していない	2 社	9 %

設問7 「食」と「健康」をテーマに分野横断の学びを提供する、食健康科学研究科（博士後期課程）について、どのような印象をお持ちになりましたか。

	回答数	構成比
とても評価できる	9 社	41 %
ある程度評価できる	12 社	55 %
あまり評価できない	1 社	5 %
まったく評価できない	—	—

設問8 食健康科学研究科（博士後期課程）を修了した学生について、採用したいと思われますか。

	回答数	構成比
採用したいと思う	5 社	23 %
どちらかといえば採用したいと思う	11 社	50 %
どちらかと言えば採用したいと思わない	5 社	23 %
採用したいとは思わない	1 社	5 %

設問9 採用にあたり、大学院(博士課程)修了生に求める能力で、重視する項目は何ですか。
(複数選択可)

	回答数	構成比
専門分野に関する高度な知識・技能	11 社	15 %
分野横断的な多角的視野	8 社	11 %
課題発見・解決能力	18 社	24 %
グローバルな視野と研究発信力	5 社	7 %
他者との連携・協働力	9 社	12 %
イノベーションを生み出す独自の発想力・創造力	11 社	15 %
研究の広範な応用力、展開力、実装力	12 社	16 %

設問 10 社員・職員の学び直しの場合として、食健康科学研究科（博士後期課程）が候補になると思われますか。

	回答数	構成比
候補になると思う	7 社	32 %
どちらかといえば候補になると思う	10 社	45 %
どちらかといえば候補になると思わない	4 社	18 %
候補になると思わない	1 社	5 %

設問 11 大学院の教育に関してご意見・ご要望がありましたらお答えください(自由記述)。

いつも大変お世話になっております。貴学の益々のご発展を祈念申し上げます。
プレゼンテーション能力を身に着けること、国際的なリーダーとなることを意識して教育してほしい。
研究者としての基礎を身につけさせてください。
高度な専門分野の知識だけでなく、課題解決能力、コミュニケーション能力等を育成する授業や演習の充実を望みます。
即戦力になる専門家を育ててほしい。
博士の方については採用した際に、個人の差が大きいかと感じております。 企業で学びを活かしたい方は良いのですが、究思考が強すぎる方は採用後の配属などで不満があったりするためミスマッチになる場合があります。大学での学びの場でフォローいただけると幸いです。

